

『孤独』 作：ポチ子

『孤独』 作：ポチ子

孤独な人に憧れる。

全部一人で解決できるような、

誰かに嫌われたって、

自分の好きなように生きる、

そんな人になりたい。

でも、実際は人に好かれる自分を望んでいる。

必死に愛想を振りまいて、

嫌いなものを好きと言って。

そうして頑張っても、

大して好かれるわけでもない。

私は知っているのだ。

自分は孤高になれるほどの才もなく、

貫くような意志もなく、

一人でなんか生きていけないような、

ちっぽけな存在であると。

だから私は憧れる。

孤独になることを許される、

そんな人に。